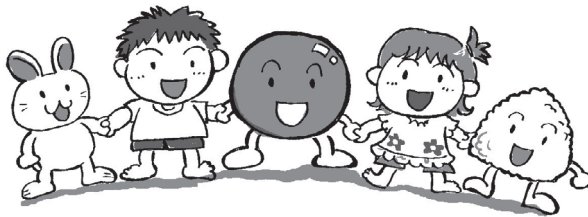


あゆみ通信

Ayumi Report No. 012

たくましく
かしこく
こころ
ゆたかに



発行 社会福祉法人「古里会」

上田市古里 824-8

☎ 0268-23-0503

e-mail ayumi-2006@oboe.ocn.ne.jp

http://www.ayumikosato.com

新任のごあいさつ



園長 宮坂 美津子

この度 ご縁をいただきあゆみ保育園の園長として勤務させていただくことになりました。長として勤務させていただきます。これまで児童福祉施設で放課後児童支援員として十数年、小学校の長期休業や放課後の生活を支援してまいりました。

年齢も性格も異なる子どもたちの成長の瞬間に立ち会う中で思いますのは「子どもたちはひとり一人がそれぞれの輝きを放ち、本当に尊い存在である」ということです。

それは先日の運動会でも間近に見ることができました。最初は苦手そうにしていた種目にお友だちの「がんばれー」の声援を受けながら最後まであきらめず挑戦する姿、その一瞬にその子の心の強さと仲間を励まし合う子どもたちの優しさを感じました。

できなかったことができるようになった喜び、誰かに応援されるうれしさ。そして自分もまた誰かを応援したくなる気持ち、こうし

た体験こそが保育の中で最も大切にしたい“生きる力”の育ちだと思っています。

その生きる力をはぐくむ園舎においては、この夏ひよこ組さんのお部屋が完成しました。明るい陽射しが差し込む安心して生活できる空間です。その小さな手足の動きや笑顔、健やかな寝顔は未来への希望そのもので、この場所から新しい命の育ちが始まっているのだと感じます。

今後は園庭の造成や外壁塗装などを計画しており、これからも子どもたちが安全で伸び伸びと遊べる環境づくりを進めます。

安心安全、子どもファーストは前園長の意思を継続してまいります。

これからも職員の力を十分に発揮し発展できるように努め、子育ての拠点として、日々ご協力くださっている保護者の皆様、OBや地域の皆様にも信頼される保育園づくりを行っていく所存です。



運動会（かけっこ）

ひよこ組 離れの完成に寄せて



理事長 水野 昭子

長年の懸案だった「ひよこ組の離れ」がようやく完成いたしました。計画よりは2か月ほど遅れてはしましたが、ひよこさんが安心してゆつくり眠っている姿や、思いつきハイハイしたりしている姿、陽だまりのテラスで給食を食べている姿などを見るにつけ、この部屋が必要不可欠であったことを実感できるものであります。ここにこぎつけるまでには、大勢の方のお力添えがあったからこそと、この場を借りて深く御礼申し上げます。

この世に誕生し、成長が著しい乳児期において、月齢の違いで生活リズムが大きく違います。ぐっすり眠れる環境の保障と、動きたくてうずうずしている子どもたちの動きの保障を「0歳児」というくくりの中で保育をすることは子どもたちにとっても、保育士にとっても良い環境とは言えませんでした。それがようやく離れを造ることによって環境が整ったのです。そして、離れだから全く別行動に

なってしまうわけではなく、広くとったテラスとマイ庭で一緒に遊んだりごはんやおやつを食べたりと、同じクラスとしての関係性つくりに十分配慮ができた構造となっています。人生最初の集団生活があゆみで良かったと思っただけの保育を実践して参る所存です。

また、園舎の外壁についてですが、こちらもメンテナンスの時期をとうに過ぎていて修繕の必要性を各所から指摘されているところでありました。この度、「公益財団法人 車両競技公益資金記念財団」様の保育所等補修改善助成事業に応募させていただいたところ

ろ、交付の決定をいただきました。四百万円の助成金をいただけますことは誠にありがとうございます。早速の修繕事業を進めて参ることになります。今年度は、工事続きの日々になってしまい、子どもたちに不自由な思いをさせてしまいうことが多くなっていました。しかし、ここで、大きな修繕をしておくことで未来のあゆみ保育園につないでいくことができます。

喜びの後についてくるのは、建築資金と不足分の修繕費です。今後どうか、皆様のご支援、ご協力を賜りますよう、この場を借りてお願い申し上げます。



ちいさいなかまで紹介されました



1969 年、働く父母の切実な願いに応じて小さな無認可共同保育所ができました。13 年の認可運動を経て 1981 年「みんなでつくるみんなの保育園」をモットーに、あゆみ保育園が開園。当時は狭かった園庭も、保護者や地域のみなさんのたゆまぬご支援により、園舎建て替え時には起伏に富んだ、思い切り走り回れる園庭ができました。

現在定員 90 名の産休明け～就学前までの子どもたちが生活しています。どの部屋も 太陽の光が入り、風の吹き抜ける檜^{ひのき}の園舎で、まん中にある給食室からは給食の先生たちがつくるご飯の匂いが流れてきます。五感を育む水、砂、土、自然とたっぷりかわる裸足の生活。リズムあそびっや鬼ごっこ、日々の散歩やバスでの園外保育などで、心とからだをいっぱい使ってあそんでいます。

八角形のシンボリックなホールが、みんなで集う場です。年長組の子どもたちに憧れて、「なにかやってる!」と敏感に察知してホールに集まってきます。沖縄のパーランクや踊り、アイヌの弓の踊りや朝鮮の仮面の踊りなど、食い入るように見つめ、小さな模倣の天才があちこちに誕生します。



(2025 年 7 月号)

第57回全国保育園団体合同研究集会「群馬」 「群馬合研」 学びの夏

「つながる、広がる、第一歩」

保育士主任 春原 駿 介

2月の関東甲信越のブロック会議、そこで知ったことは開催地群馬の前年度の保護者参加者数が長野全体の参加者数より多いことだった。比較することではないが、質問すると合研の時に限らず普段の生活から、保育士と保護者の距離がとて近くにあり、保護者から「おいてきぼりにしないで」という言葉が出るほど前のめりな様子の話もあった。

『群馬らしい合研とは』と課題をだして議論したり、集会を手作りしていくところを度々見て、自分たちも保護者と同じ立ち位置で参加し、合研に関わる人が増えるようにしたいと思った。

早速県内に投げかけてみると、

何年も合研に参加している方たち中心に賛同してもらい、「職員全員で参加します」と声が上がったり、各園で呼び掛けが広がっていた。

あゆみ保育園では、保護者の参加者は最初はほとんどなかったが、参加に興味のある方々が他の人を誘ったり、「クラス懇談会で参加を呼び掛けるのはどう？」と、いつの間にか輪を広げようとしてくれた。そのうち「どの講座出る？」「1日だけでも現地行こうよ！」などと保護者同士で声が聞こえるようになり良い雰囲気になっていった。

合研当日は、あゆみ保育園でも大事な教材として学びを重ねている、『うたとリズム』の実技講座に

参加した。現地実行委員の方が身体の使い方や、目指したい部分の詳細などを個別で解説してくれた為、見えてきたことがあった。だが、

進行をしていた先生が『お馬の親子』の解説で触れていた、四つ這いの際に顔を上げることに關しての話が一番印象に残っている。「お馬の親子のリズムでは、顔を前に上げて四つ這いをするのが望ましいのが前提ですが、一歳になった子が自分の股の間を覗いて反対の世界を楽しんだり、同じことをしている仲間と目があったりしたら、それが楽しくて仕方がないんです。」と話していた。大人が子どもの模倣となり、リズム表現をすることだけではなく、子どもが表現して感じたことを大切にできるようにしたいといつも感じていたが、それが言葉になって胸に落ちた感覚だった。園でも学びを続けたい。

また、群馬実行委員の開催地企画の「プロメテウスの火」を間近で観て、日々の保育に向かうパワーが今まで以上に湧いてきて、合研にきてよかったと強く感じた。



当日を終えて参加された保護者が「合研すこかったよね！」「白石先生の話よかったよね」と声が聞こえてきたときは嬉しかった。

合研でしか味わえない雰囲気や、得られない部分を今後も保護者も含め、多くの方に経験してもらえるように、課題は多いが、新しくできたつながりを大事に、来年度以降も積極的に活動していきたいと思っている。

投票による報告書①

保育士 山 邊 友 子

全国保育団体合同研究集会の

オンライン視聴に参加して

1. おいしく・楽しく・安全に

(横浜市総合リハビリテーションセンター

永井 志保 先生)

ご講義では口腔周囲の解剖図から下顎と全身の解説、嚥下のメカニズムについて解りやすく図表が提示された。さらにステージ上にて3名の実践者が配置され、彼らが講師と共に実演するというスタイル。これが聴衆にも視聴者にも分りやすく、しつかり練られた構成で嚥下と姿勢との関係、肩甲骨の抗重力活動について理解を深めることが出来た。

このご講義で学んだ運動の発達とリンクする「食べる機能」の発達について、現在のクラスの子どもたちの旺盛な食欲を思

い出しながら、彼らの「食べる喜び」を大切にして安全第一に見守つていこうと思う。

2. 教育・保育のデジタル化と、

子どもの権利を尊重する

保育の探求

(法政大学 児美川孝二郎先生)

タイトルを見た時から最も聴いてみたいと思っていた講義だったが、意外にもデジタル化のデメリットを強調されている内容であった。主に次の4点について講義された。

- ① 今、何が起きているのか
- ② デジタル改革はどこから来たのか
- ③ 保育と教育の現場は？
- ④ 諸外国における新たな動き

講師はDXの推進を「遊びや学びが痩せ細っているのではないか？」と危惧し、紙と鉛筆で書く事が脳の発達に有効で大切と指摘される。国の方針「国家戦略 society 5.0」には懐疑的で、これに明快に反対の立場で「ツールに振り回されて

いないか？」と警鐘を鳴らす。

オーストラリア、台湾、スウェーデンについては、紙の教材に回帰していると話す。主旨は、日本の保育・教育現場のコミュニケーションスキルの手段や伝え方のパターン化、テンプレ化の懸念など、DXを憂う内容だった。GIGAスクール構想はグローバル資本主義の企業が成長するための戦略だという講師の主張は、自分にはない視点だった。

最近関心を持つている佐藤航陽氏のAI論と併せて、注目しながら心の周波数を高めてゆきたい。

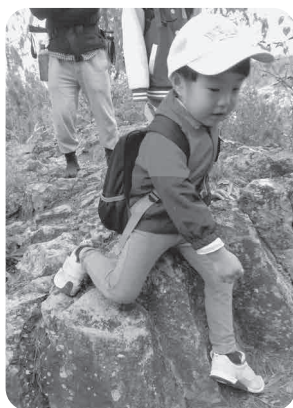
土曜保育でターザンロープが出来ないかと思案しながら、子どもたちの時計の針が幸せな時間を刻んでゆきますよう祈りつつ。



3. 研修後に思ったこと

時間の使い方は命の使い方とはよく言われることであるが、子供たちの気持ちの切り替え方には目を見張るものがある。保育の現場も人と人々が織り成すものだから、大人も謙虚に周囲から学ぶ姿勢を持ち続けたいと思う。これからも働ける有難さを忘れず、一期一会の気持ちで目の前の事象と向き合っていきたい。

最後に、パートにも参加の機会をご高配くださった法人の皆様、開催にご尽力くださった春原主任に感謝申し上げます。ありがとうございました。



ぞう組 登山

投票による報告書②

保育士 村越 美穂

3・4・5歳児のあそびと生活の分科会にて、意見の交換や、日々の保育の中での悩み、素朴な疑問などを出し合い、議論を交えながら話し合いをした。はじめに、3県の各実践報告を聞いた。

〈大阪〉クラス全体で絵本の話の世界で、ごっこ遊びを楽しみ、大すきになるAくん。Aくんの姿から、好きなことを見つけたことで生活の姿が変わる。「これがしたい!」という気持ちで、朝の準備から張りきる様子。

〈長野〉子どもたちと、大人とで、楽しさのズレを感じたという実践報告。子ども同士の遊びに入り、一緒に楽しみ盛り立てるが、どこか子どもが盛り上がりず・・と、保育者が感じ

る。保育者の思いがつい先行していたことに気づき、「子どもから感じるワクワク感を大切にしたい」と振り返った実践。

〈神奈川〉「ばけぎつね」を題材に、想像の世界で楽しんだ4歳から5歳児になった実践報告。散歩先で動物の毛を見つければ、妖怪が好きな子が「ばけぎつねだ!」という想像から始まる。子どもたちの想像力を大事にし、夢中になつて調べて、会いたくて、作戦を立て・・・

気づくと保育園全体に遊びが広がり楽しんだという実践報告。

3県の実践報告を聞いて、保育者の計画や願いだけではなく、突然のハプニングをきっかけに面白さに繋がることや、子どもとイメージが一致した時の遊びの



盛り上がり、自分も経験したことがあるなど感じた。世話人の先生が「名前のないあそびほど、子どもは楽しんでいる。」と言っていたことが、とても印象に残った。また、「子どもの声を聴くことは、子ども同士の声を聴くこと」と聞き、自分が子どもと同じ立ち位置にいない



と分らないことだと感じた。3・4・5歳児の保育内容ではあったが、今自分が担当している1歳児においても子どもから感じるワクワク感を大切に保育していきたいと思った。そして、年齢の垣根を越えて、連携をとりながら園全体で保育していきたいと思う。

あゆみ保育園の給食

栄養士 近藤 桃 香

あゆみ保育園の給食室は保育園の真ん中に位置しています。「きょうカレー?」「なんかからあげのにおいするー!」「きょうのおやつなあにー?みせてー!」毎日大勢の子どもたちが給食室の窓を開けにきます。食事の時間が近づくにつれて園内に良い香りが漂い、食欲をそそります。そんなあゆみ保育園の給食づくりについて特に大切に行っていることをいくつかご紹介します。

栄養士が描いた日替わりパネル



一つ目は、国産・無添加で安全な食材を使用することです。

旬の野菜や果物は、近隣の農家さんより直接仕入れていきます。国産の食材は新鮮で安心・安全な上、生産者の顔が見えるのも魅力です。年長児クラスによる味噌づくりは三年目になりました。今年は子どもたちを中心とした園での畑活動にも力を入れており、収穫したての食材を給食に使用する日もあります。自分たちで収穫した食材を食べることは、とても幸せな経験であると実感しています。

二つ目は、食材やだし的美味しさを生かした味付け、程よい固さで仕上げることです。

幼少期は味覚の基礎が作られる大切な時期です。この時期に育まれた味覚は一生ものといわれます。昆布・かつお節・煮干しなど天然の食材をしようしただしをしつかりととり、素材

そのものの味や旨味を感じられる薄味にしています。また、咀嚼力を鍛えるため食材は小さく切りすぎず、程よい固さを残して調理します。大きなブロッコリーを大きな口を開けて頬張る姿には子どもたちの持つエネルギーを感じます。

三つ目は離乳食期の食事です。

初期・二回食目をご家庭で始められた頃から提供し、子どものようにすに合わせた個人対応をしています。初期は野菜のだしのみ、中期から昆布等のだしを使用します。醤油や味噌を使つた味付けは後期からとなります。また「手づかみで自ら食べることを特に大切に、手づかみで食べやすいよう大根や人参、じゃが芋などの煮野菜は大きく切り、コトコト煮ていきます。食感の変化を感じてもらうため、キャベツなどのお浸し、汁物も提供します。自分で食材を触り、掴んで口に運ぶこ

とで自分の口に入れられる量、柔らかいもの・固いものがあること、掴むときの力加減など、様々なことを学びます。それらを繰り返すことにより、「食べる力」が身に付きます。※最後になりますが、保育園の仲間と食べる給食を通し、五感で食を楽しむ経験が、子どもたちの豊かな心と身体を育ててくれることを願って、これからも給食づくりをしていきたいと思っています。



力を合わせて芋ほり

社会福祉法人 古里会 あゆみ保育園

2024年度財務状況を、ここにお知らせいたします。

あゆみ保育園をつくる会 収支計算書

(自) 令和6年4月1日 (至) 令和7年3月31日

社会福祉法人名 古里会

(単位:円)

収 入		
科 目	金 額	内 訳
寄付金	401,072	協力金
		職員 260,000
		卒園児・理事・他 60,072
		保護者会(園庭使用料補助・駐車場借用料) 81,000
物資収益	562,855	自然食、虫よけ 272,483
		三陸・ウイナー・絵本 49,788
		文旦 102,160
		りんご 55,210
		野菜・ドライフラワー 3,400
		ハッピースマイル 62,814
		一時保育室使用料 1,000
		ホール利用料 16,000
団体会費	73,000	保護者会より
年末物資寄付	154,000	年末物資一口500円
雑 収 入	15,273	利息 845
		その他 14,428
小計	1,206,200	

支 出		
科 目	金 額	内 訳
事務費支出	4,000	監査謝礼(2名)
		4,229 デジカメバッテリー代
		317 つくる会通帳ゴム印代
		753,280 未満児プール購入・旧プール破棄代
小計	761,826	
駐車場借用料	560,000	2024年度後期保護者・職員駐車場
		960,000 2025年度保護者・職員駐車場
		600,000 2025年度職員駐車場
合計	2,881,826	

前年度繰越金 収入 支出 繰越
1,424,981 + 3,468,948 - 2,881,826 = 2,012,103

2023年度年末物資より	560,000	
あゆみまつりより	349,595	内あゆみまつりをつくる会売上 4,012円
年末物資より	1,353,153	
合計	3,468,948	
2023年度繰越金	1,424,981	

保護者会長 2020年から
評議委員を務めていただいた
国中健太 さんが
5月に永眠されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。



おくやみ

懸案であったひよこ組離れが完成しました。ご協力に感謝します。今年も年末サケ・タコ物資の季節がやってきましたが、例年通りの物資販売は今年が最後になりました。あゆみ保育園オリジナル酢ダコも来年は食べられないかもしれません。最後の年末物資多くの注文をよろしくお願いいたします。

あゆみ保育園 つくる会 会長 松井 秀二

年末物資の購入お願いと保育園への支援

今回チラシを同封した年末物資の購入販売にご協力をお願いいたします。
職場、友人、近所の方にも声掛けをしていただくと幸いです。
支援して頂いた資金は例年通り駐車場の借用料や国基準を上回る保育士の加配、安心安全の自園給食、園児のための環境整備などあゆみが目指す保育を維持するために使わせていただいています。
あゆみ保育園へのご支援をお願いします。

一口 1000円 (何口でも可)

つくる会 寄付振込口座 八十二銀行 神科支店 普通126647
口座名義: アユミホイクエンヲツクルカイ

寄付金控除の領収が必要な方はお申し出下さい